



2016年12月 No.4

できたしこルーテル4

日本福音ルーテル教会九州教区熊本地震救援対策本部ニュース

地震から8ヶ月。感謝と、嘆きと、意欲と、祈りが交錯する被災地くまもとから！

元気を届ける【九州学院】

■臨床宗教師仲間浄土真宗の糸山僧侶との支援協働活動で、九州学院チアダンス部にボランティアをお願いしました。大きな地震が3度襲った宇城市の老人ホーム水晶苑で、被災者に元気を届けました。演技だけでなくゆっくり寄り添い話を聞き、共に時間を過ごしました。帰り際のこと一人のおじいさんが「この若い子たちがいるから日本も熊本も大丈夫」と涙を流して喜んでくださったのが一番の励みになりました。



被災者に元気を運ぶ九学チア部の笑顔

宗教者の役割【立野泰博】

■南阿蘇立野地区は災害被害が大きい所です。実家も全壊し、最後に発見された青年は親戚です。いま臨床宗教師の仲間とこの地域と仮設に「心の支援 Café」をしています。浄土真宗・神社の門徒が多い村です。僧侶、神主と共に倒れたお墓、納骨堂、被災地域に立ち、祈りを合わせ行脚します。東日本大震災で宗教者は存在の変革を求められました。これからが宗教者の役目です。宗教宗派を超え現場の苦難に寄り添います。



被災地 立野で祈る立野牧師

被災地に花を！【ルーテル学院】

■ルーテル学院の建学の精神は感恩奉仕です。自分を超越して他者のために生きる心を生徒の中に育てる取り組みの一つとして学院はボランティア活動に取り組んでいます。九州教区の地震復興の取り組みの一環として、10月15日(土)には、ルーテル学院の生徒、校長、教職員、教会からのボランティアが熊本空港の近くの西原村の仮設住宅へ花壇づくりに出かけました。西原村は熊本地震復興のために、村が中心となって、仮設住宅等に地域の人々とボランティアが協力して花を植えていく活動を進めています。西原村が花と未来へのメッセージで溢れ、村民全員が笑顔で暮らせる日が実現する時まで、この活動は続きます。

礼拝中の雨漏り【甲佐教会】

■10月のある主日、礼拝中に天井から何が降ってきました。雨漏りです。とりあえずバケツで受けて、礼拝後に屋根を確認したところ、案の定ブルーシートが大きく剥がれかかっています。4月の震災で痛んだ棟瓦。すぐに屋根屋を呼んで見積もりをとり、ブルーシートを貼ってもらったのですが、震災から7月も経ってシートも傷み、部分的に剥がれかけていたのです。何度も張り直しを依頼しているのに、業者も仕事が詰まっているらしく、なしのつぶて。そうこうしているうちに、この度の秋雨で礼拝中の雨漏りになってしまったのでした。屋根屋によれば、年内はととも瓦の施工は無理とのことで、やむなく再度のシートの張り直しを強く依頼しました。■幸い、全国の皆様からの温かい支援で、修理の費用についてはなんとか目処をつけることが出来ました。けれども、人件費と建築資材の高騰もあって、熊本には工事の予定が立たない教会や信徒さん宅があふれています。建物のクラックくらいなら、「目の方を塞いで見ないようにしておく」のが、最善の処置だと言われているのです。

事務局員の交代【障害者センター】

■できたしこルーテルが協働する「被災地障害者センターくまもと」では、設立当初からセンターの実務を担ってきた事務局の田口嗣業さんが11月末に退任。新たに一木怜子さんが事務局入りしました。ルーテル教会から派遣の大山直美さんは正式に事務局員として会計実務をも担当することに。■センターでのボランティアは、障がい者支援の経験がある方か、障がい者の家族がいる方とされています。県外からの場合は複数日の参加を、とのこと。詳しくはセンター(096-234-7728)にお問合せ下さい。

参加してきました！【池谷孝史】

■「障害者支援センターくまもと」を通してのボランティアに2日間、参加しました。当日は朝9時にセンターの事務所でミーティングをし、その日の作業と、全国から集まったボランティアさんの割り振りを確認



した後、それぞれ出発。ボランティアの内容は、センターに寄せられたニーズに沿って様々です。■当日行ったのは、身体障がいを持つ方の住宅の片付けでした。7-8人で、可燃と不燃を分類し、1.5tトラックに積み込み、処分場へ運ぶ作業でした。丸2日かけて片付くほどの分量でしたが、これを、障がいを持つ方とその家族だけで片付けることは不可能です。ということは、これまで声を上げられずにいたり、声を上げても十分な支援が届かない現状があるのだと思います。その様な働きに「できたしこ」も新しい働きと役割を見出しています。お祈りに覚えていただければ幸いです。

九州短信

博多教会-愛児園・L.E.C.センター避難所で出会ったカメラマンの避難者さんの「被災地写真展」を9月に教会で開催。約100人の来場者がありました。
長崎教会-11月に被災者支援のためのバザー&フェスタを開催。絵本のおはなし会の他、綿菓子・おでん・信玄寿司・お総菜・手芸品など。晴天にも感謝でした。
健軍教会-関係施設と共に取り組んでいる若枝奨学会を通して、被災した学生・生徒への奨学金事業を準備中です。教会ブログ参照。応援をお願いします。
箱崎教会-教会の関係の絵本作家さんより絵本200冊の寄贈。ルーテル教会・YMCA関係の幼保や福祉施設を通して、被災地の子どもたちに贈られました。

教会・学校の復旧のため、更なる支援をお願い致します！

■11月に行われた全国常議員会で、熊本地震復興支援のための第2期募金の取り組みが承認されました。みなさまからお送りいただきました第1期の建物募金1800万円余と九州教区の支援により、被害額がはっきりしている教会については、ほぼ復旧費用の目算が立ち、幾つかの教会については工事を完了することが出来ました。心より感謝いたします。■しかしながらなお、残された課題は小さくありません。中でも熊本の教会と歴史的な関係を持ちながら、ともに宣教にあたってきた九州学院のブラウンチャペルと九州ルーテル学院のルーテル阿蘇山荘は、特に甚大な被害を受けました。加えて、教会員も被災した中、復旧に向けて特に事情を抱えておられる神水教会と大江教会の取り組み等への支援をお願いしたいのです。再度みなさまの熱いお祈りとお支えをお願いする次第です。

ブラウン記念チャペルの修復【九州学院】

■九州学院のシンボルであり、卒業生・在校生の魂の故郷、心の拠り所となっていますブラウン記念チャペルも、此の度の熊本地震によって大きな損傷を受けました。礼拝という宗教行為が行われる場所であり、登録有形文化財に指定されているために補修のための補助金が出ない中、現在、それらの修復を急いでもらっていますが、しばらく使用不能の状態が続いています。■大きな葬儀や宗教改革

記念合同礼拝の会場となるなど、教会によっても豊かに用いられている熊本地区にとって大切な礼拝堂です。皆様のご援助を賜れば、真に幸いです。



11月 復旧工事を急ぐブラウンチャペル

新しい大江教会に向けて【大江教会】

■もともと九州学院教会として出発した大江教会には、今日も多くの子供の生徒たちがやってきます。震災後は、地域のお母さんたちの心のよりどころとなるべく、ママカフェをオープンして支援にあたるなど、地域とともに歩んできました。■熊本唯一のキリスト教書店であるハレルヤ書店は、この大江教会の旧集会室を利用してきました。■今回の地震では、被災した礼拝堂部分につ

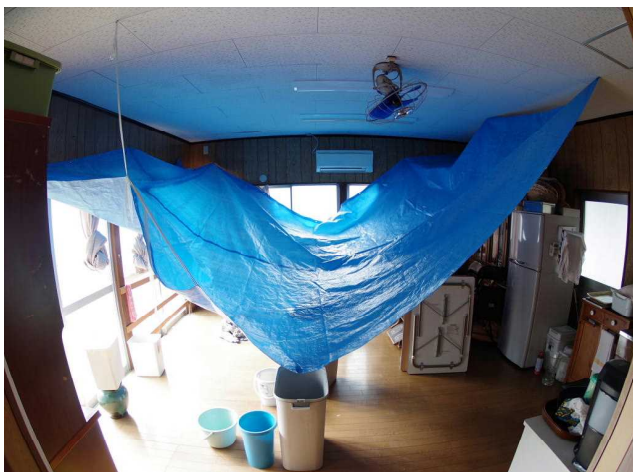


支援に関わる宗教者が集う震災直後の大江教会

いては補修が終わったものの、旧集会室の復旧はこれからです。大きな費用も必要となる事業で、いま計画を立案している段階ですが、全国の皆さんの協力が得られるなら幸いです。

計画の変更を迫られる耐震工事【神水教会】

■最初の地震がおこった4月14日。この夜、神水教会は建築委員会を開催していました。そこで話しあわれたのは、懸案であった第3期耐震工事に着手する、と



震災直後 雨漏りに見舞われた集会室

いう教会の決断でした。■委員会を終え、みなが帰路についた30分後に、巨大地震が教会を襲いました。幸い、第1・2期の耐震工事の効果で、教会の倒壊という最悪の事態は免れましたが、礼拝堂の亀裂が広がるなど、第3期工事の施工が待たれています。■また、震災後の建築費用の高騰により、工費は当初の1700万円の見積もり額から、現段階ですでに数百万円規模も経費が跳ね上がってしまっており、資金計画の変更を迫られています。

阿蘇山荘復旧への道のり【ルーテル学院】



ライトハウスから移築されたという小ホール

■ルーテル阿蘇山荘は、もともと九州教区のキャンプ場であったものが、学院の大学設置にともないルーテル学院に、その大半が移管されたものです。毎年5月には熊本地区女性会を中心に百数十名もの熊本の教会員が集まって清掃活動を行い、教区の各種行事も催されるなど、九州の信徒にとって心の故郷とも言える山荘でした。■震災のため大規模な被害を受け、行政の補助対象にもならない中、どう改修するのか難しい判断です。学院として、すぐにとは断言できないが必ず復旧させる、という方針を示しておられます。教会としても、この事業に協力していきたいと思ひます。